

## 3-12 体育館（圏域：地域・地区）

### 3-12-1 施設再編の方針

<b>対象施設</b>
別府市別府勤労者体育センター、中部地区体育館、朝日大平山地区体育館、南部地区体育館、市民体育館、西部地区体育館、野口ふれあい体育館
<b>施設再編の方針</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>▶ 地域住民の利用が主となっている地区体育館等については、日常的なスポーツ活動の場として、また災害時には避難所として重要な機能を有していますが、曜日別・時間別の個人及び特定利用団体の使用状況を収集・分析し、利用実態を十分検証したうえで、管理体制も含めた適正規模への見直しを行います。</li><li>▶ ただし、体育館については、学校体育施設の開放や地域との共同利用化など、学校教育に十分配慮したうえで有効活用を推進し、スポーツクラブ等の民間施設の配置状況も踏まえて、地域的なバランスに配慮しながら、同じ施設分類の集約化を図ります。</li><li>▶ 市民体育館は、大規模大会時のサブ体育館としての役割もあるものの、旧耐震基準の建物で老朽化が顕著であり、アリーナと会議室の利用率は42.4%と相対的に低いため、施設の集約化を視野に、施設の存廃について今後の方向性を決定します。</li><li>▶ 別府市別府勤労者体育センターは、旧耐震基準の建物で老朽化しており、当初の設置目的である勤労者の利用も1割程度と少なく、目的が薄れているため、概ね3年を目途に、利用者の近隣類似施設のあっせんなど必要な調整を行ったうえで廃止します。</li></ul>

※市民体育館は、正式名称は「体育館」ですが、判り易く「市民体育館」と表記しています。

### 3-12-2 現状分析

#### ① 施設の概要

市民体育館は、防衛施設周辺民生安定事業により国の補助を受けて建設したもので、延床面積2,616㎡、アリーナ・柔道場・剣道場・会議室があります。

地区体育館の施設規模はそれぞれ異なりますが、ステージや更衣室等があり、卓球やミニバレーなど定期的な利用が主となっています。町内の文化活動や中学校の部活動の場としても利用されています。野口ふれあい体育館は、旧野口小学校の屋内運動場をリニューアル工事（耐震化）したものです。

別府市別府勤労者体育センターは、スポーツ活動等を通じ、勤労者の福祉の増進と雇用の安定に資することを目的として設置されたものです。延床面積1,253㎡で、1階体育館の広さ（全面）は800㎡（25m×32m）、平成20年度に2階トレーニング室を小体育室に改修しています。

#### ② ポートフォリオ分析結果

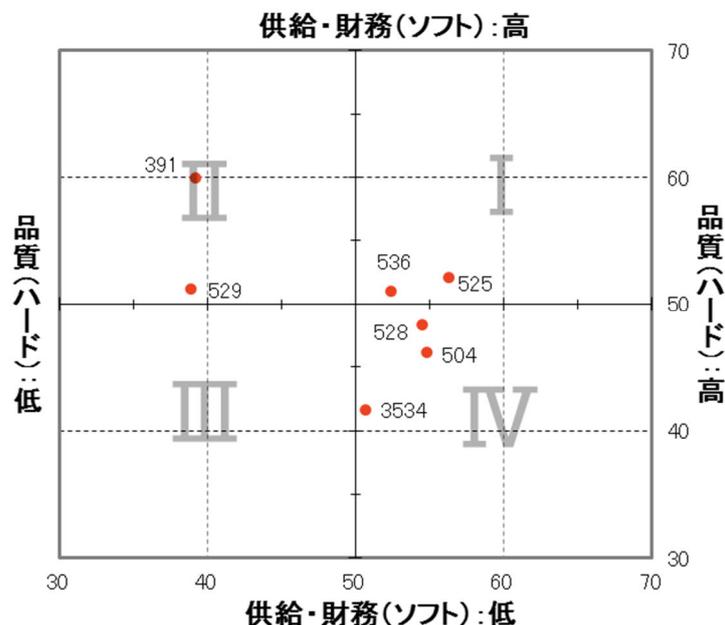
利用圏域が地域である体育館は7施設あります。

品質状況については、築年数が33.0年である別府勤労者体育センター、および築年数が34.0年である市民体育館は耐震化未対応の施設であるため、偏差値が低く算出されています。

供給状況については、体育館機能を持つ部屋の利用率には施設間でばらつきがみられますが、朝日大平山地区体育館、野口ふれあい体育館が低くなっています。1日あたり利用者数をみると、

別府市別府勤労者体育センター、市民体育館がそれぞれ 109.5 人、115.0 人と 100 人を超える利用者に利用されています。

財務状況については、利用者あたり市負担額の指標により算出していますが、市民体育館が 334.8 千円/人と他の 6 施設に比べて高くなっており、利用者負担を検討するなどの改善策が必要です。



台帳番号	施設名称	占有面積 (㎡)	品質				平均偏差値 (ハード)
			築年数 (年)	偏差値	耐震対応率(%)	偏差値	
391	別府市別府勤労者体育センター	1,253.2	33.0	48.4	0.0	30.0	39.2
504	中部地区体育館	714.9	23.0	54.4	100.0	55.3	54.8
525	朝日大平山地区体育館	1,759.1	18.0	57.3	100.0	55.3	56.3
528	南部地区体育館(複合施設)	1,229.9	24.0	53.8	100.0	55.3	54.6
529	市民体育館	2,616.0	34.0	47.8	0.0	30.0	38.9
536	西部地区体育館	686.0	31.0	49.6	100.0	55.3	52.5
3534	野口ふれあい体育館	745.9	36.9	46.1	100.0	55.3	50.7

供給				財務		平均偏差値 (ソフト)	判定結果
利用率 (%)	偏差値	1日あたり利用者数 (人/日)	偏差値	利用者あたり市負担額 (千円・日/人)	偏差値		
67.8	63.9	109.5	63.1	67.8	52.8	59.9	II
48.2	41.3	58.9	41.6	41.5	55.4	46.1	IV
51.3	44.9	87.2	53.6	19.7	57.6	52.0	I
55.8	50.0	64.5	44.0	88.5	50.7	48.3	IV
66.1	61.8	115.0	65.5	334.8	26.1	51.1	II
59.2	53.9	63.0	43.4	39.9	55.6	51.0	I
41.9	34.2	52.1	38.8	76.3	51.9	41.6	IV

図 41 ポートフォリオ分析 (体育館 (地域))

### ③ 老朽化の状況

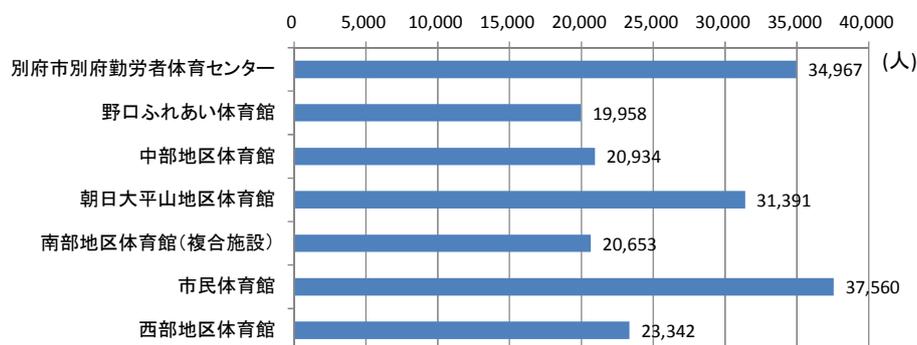
別府市別府勤労者体育センター、市民体育館、西部地区体育館、野口ふれあい体育館は建築後 30 年以上が経過しており、老朽化が想定されます。

市民体育館は、旧耐震基準の建物で、耐震化未対応です。内部劣化も進んでおり、継続使用する場合は大規模な改修が必要です。

#### ④ 利用状況・コスト状況

##### (i)年間利用者数・利用率

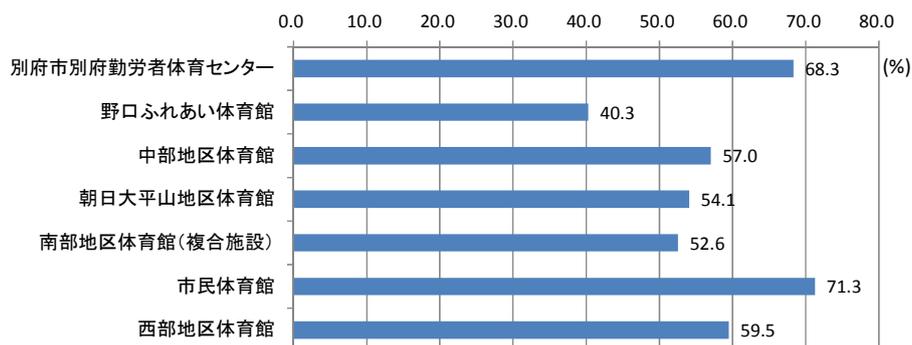
別府市別府勤労者体育センターや市民体育館の年間利用者数が相対的に多く、地域の活動に密着した傾向の強い地区体育館の利用が少ない傾向にあります。年間約 20,000 人程度となっている施設は 1 日あたりの利用者数に換算すると約 50 人から 60 人程度の利用となっています。



※平成 26 年度実績に基づいて作成

図 42 各施設の年間利用者数

利用率については、年間利用者数が多い別府市別府勤労者体育センターや市民体育館の利用率が高い傾向にあり、その他の施設においては概ね 40%から 60%台となっています。利用者数、利用率が低い施設については、学校施設との共用化を図ることも有効です。



※平成 26 年度実績に基づいて作成

図 43 各施設の利用率 (体育館機能を持つ部屋)

##### (ii)運営コスト

市民体育館は野口原総合運動場周辺の体育施設グループとして指定管理者(総合振興センター)が運営を行っています。利用者数は、年間 3 万 8 千人で、利用料金収入等が 500 万円程度ありますが、支出に対する税金負担割合は 10 割となっています。柔道場・剣道場は、以前に廃止した柔剣道場の代替施設となっています。

別府市別府勤労者体育センターの利用者数は、年間 3 万 5 千人 (平成 26 年度) で、1 日当たり利用者は約 120 人です。施設使用料収入が年間 250 万円程度と少なく、支出に対する税金負担割合は 7 割を超えています。

中部、朝日大平山、南部、西部の地区体育館及び野口ふれあい体育館の利用者数は、年間 2 万人から 3 万人となっています。施設全体の利用率で見ると 27%から 58%とばらつきが見られます。平均すると 1 日当たりの利用者数は 60 人前後です。施設使用料収入が少ないものの、施設の管理コストがあまりかかっていないため、財務状況はおおむね良好という結果が出ています。しかし、今後は老朽化の進行とともに修繕費等の増加が見込まれます。